

カイメン(海綿)動物門> 尋常カイメン綱> 単骨カイメン目> タンスイカイメン(淡水海綿)科

学名：*Eunapius fragilis* (Leidy, 1851)

和名：ヨワカイメン

特徴：海綿体：不規則な平板状から塊状で護岸壁、古タイヤ、水生植物の茎などに着生する。体表には多数の凹凸がある。藻類の共生によって緑色になることがあるが、ふつつ汚れた黄褐色である。複数の芽球が集まって共通の芽球殻に包まれ芽球の塊を形成し、この芽球の塊が体の底部に敷石状に並ぶ。冬期は芽球を残して体は崩壊する。

芽球：芽球は個体の底部に層状に形成される。共通の芽球殻の中に2~3個から数個の芽球が入る。

骨片：骨格骨片は両針体(両方の先が尖る)で平滑。長さ約170~230 μ m、直径6~11 μ m。芽球骨片は先端が丸いか、または尖った有棘の棒状体で、長さ75~145 μ m、直径5~15 μ m。遊離小骨片はない。

湖内での分布：全域の湖岸および平湖、西の湖、東部承水溝、雄松内湖で採集された。

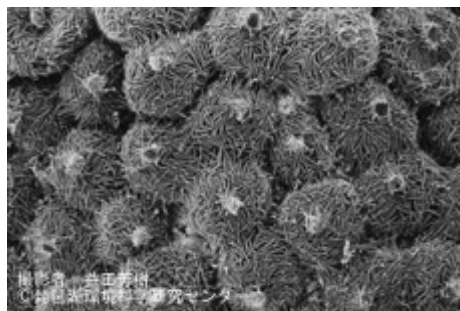
その他：本種は世界中の淡水域に広く分布する。古びわ湖層の堅田累層から本種の化石が出土する。

本ページの写真の無断使用を禁じます

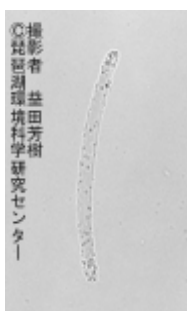
ヨワカイメン



ヨワカイメンの芽球骨片
(撮影 益田芳樹)



ヨワカイメンの
芽球と芽球殻
SEM(走査型電
顕写真)
(撮影 益田芳
樹)

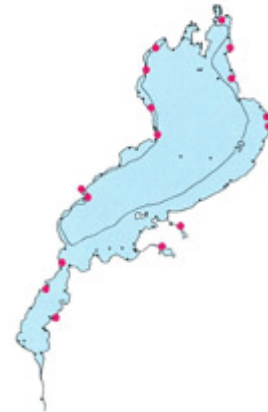


空缶に付着したヨワカイメンの海綿体
(右側の茶色の海綿体)



ヨワカイメンの骨格骨片
(撮影 益田芳樹)

1988-1990
ヨワカイメン 分布
図中の黒い点（・）は
調査地点を表す



参考文献：

1. Annandale, N. and T. Kawamura (1916) The sponges of Lake Biwa. Journal of the College of Science, Tokyo Imperial University, 39: 1-27.
2. 渡辺洋子 (1993) カイメン (海綿) 動物門. p.4-16. 西野麻知子 (編), びわ湖の底生動物 -水辺の生きものたち- III. カイメン動物、扁形動物、環形動物、触手動物、甲殻類編. 滋賀県琵琶湖研究所.

* 執筆 渡辺洋子・益田芳樹

本ページの写真の無断使用を禁じます